

平成 18 年 6 月 22 日

各 位

株式会社 ほくほくフィナンシャルグループ

「第 7 回業務監査委員会」の概要

「第 7 回業務監査委員会」の概要につきましては、以下のとおりであります。
今回の委員会では、当社から先般公表いたしました平成 17 年度決算等についての説明を行い、その後、各委員の方々から忌憚のないご意見を頂戴いたしました。

1. 日時

平成 18 年 6 月 21 日（水） 13:00～15:00

2. 場所

北陸銀行本店

3. 出席者

< 業務監査委員会メンバー >

佐々木 亮子	有限会社アールズセミナー代表取締役社長、元北海道副知事
丹羽 昇	富山大学経済学部教授
本田 百合子	公認会計士・税理士・行政書士
河上 敏嗣	当社常勤監査役

（五十音順、敬称略）

< 当社出席者 >

高木 繁雄	取締役社長
堰八 義博	取締役副社長（札幌：テレビ会議）
他、常勤取締役 5 名	

4. 当社からの説明要旨

事務局より、以下の内容について説明をいたしました。
平成 17 年度決算について
経営健全化計画の履行状況

5. 委員からのご提言・ご質問等について（斜体文字は当方からの回答）

【質疑応答】

< 決算関連 >

投資信託やデリバティブなど新しい業務による収益が大きく伸びている。こうしたフィージビネス等の分野は今後も注力していく必要がある。自己資本比率も向上し健全化は着実に進んでいるが、不良債権比率は低下したものの地銀平均より高く、早期に地銀平均以下になるよう取り組んでいく必要がある。

- ・新しいビジネス分野での収益増加は、広い取引の裾野があったからこそできたと考えている。引き続き取引先数を増やし、投信販売など的一方でしっかり預金の吸収も行なっていきたい。
- ・不良債権処理については、地域金融機関として再生支援の取り組みを基本と考えており、不良債権になったらすぐに売却して切り捨てるという対応はしない。しかし、これまでの取り組みの成果も現れており、早期に4%台とすることを目指す。

<人材育成等>

ローコストオペレーションを進めてきた結果、パートスタッフの比率が高まっており、今後は、どのように行員の質を高めていくかが課題となる。証券化ビジネスなどが活発化してきており、今後、大きな流れのひとつになると思われるが、そうした業務に対応できる人材を確保していく必要がある。

- ・人員削減については、18/3 月末がボトムと考えている。両行とも人手不足といった感が出てきており、必要な人員を確保するために中途採用等も積極的に行なっていきたいと考えている。

<CSR>

ステークホルダーである株主に対するスタンスを確立していく必要がある。株価や配当といったことを意識した経営が更に大切になってくる。

法令遵守やコーポレートガバナンスといった問題はCS（顧客満足）とならんで銀行の生き残り戦略として重要視される。環境問題や男女共同参画といったことにも留意してほしい。ビジネスマッチングなど得意分野を更に強めていくと同時に起業支援などの分野にも期待したい。収益が改善し、いろいろな挑戦できる環境となっていており、長期的な視点での取り組みや地域への還元を考えてほしい。

- ・女性の行員については支店長への登用も行なっており、係長クラスの方も多数いる。今後も、女性の活躍できる職場の提供に努めていきたい。
- ・企業支援の分野は、リスクリターンを睨みながら対応していく必要があるが、産学官の連携などのほか、ファンドの設定や関連会社のベンチャーキャピタルを利用した投資などにより地域の活性化に資するよう取り組んでいく。

<郵貯民営化対応、他行差別化等>

郵貯民営化やメガバンクの地方への進出など競争環境が厳しくなるとみているようだが、他の地域金融機関も含めた競合の中で、どこで差別化していくか。アピールするものを作っていくことが必要。

- ・当グループの強みはネットワーク。ネットワークを活かしたビジネスマッチングや情報力・コンサル能力をもって差別化していきたい。「Anytime・Anything・Anywhere」の精神で、地域のお客さまのニーズがあれば、いつでも、どんなことでも、どこまでも行ってサポートしていく。

以上

<p>お問合せ先 (株)ほくほくフィナンシャルグループ 企画グループ 北川 (076 - 423 - 7331)</p>
--